

「たましいの渇きと癒やし」

ヨハネ 4:3-29

【1】イエスはサマリヤを通った

現代を生きる私たちはいつでも、どこでも誰かと繋がることできる。しかし、どこか窮屈に感じることもある。さらに何をしても、どこまでも満たされることのない空白や渇きを感じることもあるだろう。今日の聖書に登場するサマリヤに住むこの女性もそのような一人であった。彼女はこの渇きを癒すために男性を求めたが、それもまた彼女の渇きを癒してはくれなかったのである。

このときイエスはユダヤ地方(南方)からガリラヤ地方(北方)に向かう途中にあった。その途上に位置するサマリヤの町をイエスはあえて立ち寄ったのである(4)。当時ユダヤ人はサマリヤ人を毛嫌いしこの道を通ることはなかった。しかし、イエスは彼女と出会うためにこの道を通られた。それは、彼女の渇きを癒すためであり、大切な真理を示すためでもあった。

【2】渇きの原因

主イエスは鋭く女の秘密を見抜き、彼女の心の奥に触れた。それは、彼女の異性関係であった(16-)。私たちは人に知られたくない心の闇、秘密(罪と言って良いかもしれない)がある。しかし、この部分を神は取り扱ってくださるのである。

私たちは何よりもこの心の闇を隠そうと神から隠れようとする。アダムとエバも同様であった(創世記3章)。そして第二に、他人から自分を隠そうとする。さらに第三に自分から自分を隠してしまう。このようなことの結果として、私たちは表面的なことばかり

目を留め、本質的な問題から目をそらしているために渇く。しかし、イエスはしっかりと本当の問題に目を留め、そこに向き合わせようとしたのである。このお方こそ、私たちの最高の助言者なのである。

【3】永遠のいのちへの水

主イエスは助言を与えることに留まるお方ではない。この方は人に渇くことのない永遠のいのちへの水を与えることのできるお方である(13-14)。サマリヤの女はイエスと対話を重ねる内に礼拝へと心に向けていった(20)。

人のおもな目的とは、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである(ウエストミンスター小教理問答問1)。このために私たちは神によって造られたのである。このお方を求め、このお方を礼拝することによって人は生きる意味を見出すことができるのである。

サマリヤの女がイエスに出会った時、彼女の心の中にいのちの水が音を立てて湧き上がったのである。彼女はイエスが真にたましいを癒やしてくださったことを経験し、この方こそ礼拝すべき方であることを知ったのである。

イエスとの出会いは彼女を全く変えたのである。次の瞬間彼女は水がめを置いたまま町へ行き、人々の喜びの知らせを伝えたのである(28)。彼女はイエスとの出会いによって神との関係が回復されたのである。隠さなければならなかった自分自身を取り戻し、人との関係を回復したのである。さらに彼女に起こった救いが、彼女から溢れ出て町中に証しされていった。私たちもサマリヤの女と同じように、イエスの御声に聞き、そのお方に出会う時、内側から全く新しい者へと変えられるのである。